



せいほう



久留米市立青峰小学校
校長 森 勝之

バトンをつなぐ3月は「感謝の心」で過ごしたい



明るい日差しに春を感じる季節となりました。本日から3月。次年度にバトンをつなぐこの時期、子どもたちには感謝の心を持ち過ごしてほしいと思います。

3月は、リレーに例えるとバトンゾーン。子どもたち1人1人が1つ上の学年の自分にバトンを渡す月です。また、学校全体では、6年生が5年生にバトンを渡す月です。6年生はこれまで青峰小学校のリーダーの役割を果たしてきてくれました。このバトンは重かったらうし、走る苦しさがあったかもしれません。しかし、このバトンを持ち走り切ることで、思いやりや優しさ・責任感を身につけ、一緒に走る仲間としての友情を育てています。5年生は、このバトンを渡してくれた卒業生に一步でも近づこうと努力し、1年後にはバトンをまた次の世代に渡す。学校の伝統はこのようにして築いていくのです。

例えば、今誇れる学校の伝統の1つに、全校での集合状況があります。1番に6年生が集合場所に到着し、無言で整列し静かに待つ。その姿を下級生が真似して行動するので、無指示・短時間で全校集合が完了しています。このような6年生の率先垂範の姿は、青峰小学校の素晴らしい伝統となっています。今後、この伝統はずっと続けていって欲しいと思います。

このように、“最上級生”という重いバトンを持ち走り続けた6年生に感謝するとともに、これまでもずっと青峰小学校の伝統を引き継いでくれた先輩方、地域の方々、そしてお家の方々や先生方にも感謝しながら、残りの1日1日を大切に過ごしてほしいものです。

ご家庭でも、1年間のがんばりや成長をお子さんと一緒に振り返ってみてください。4月に比べて、できるようになったことをたくさん見つけて、成長を確かめ合ってもらいたいものです。今年度できなかったことは、これからの目標とすることで、進級・進学に向けて夢や希望をふくらませる3月にしていただけると幸いです。



人間の究極の幸せ



卒業式や修了式を前に、今年度最後のメッセージを青峰っ子に贈ります。このメッセージは、日本理化学工業株式会社の社長の大山泰弘著『働く幸せ』という本に紹介されています。これは、大山氏の導師である寺の住職の言葉です。日本理化学工業については、全国初の心身障害者雇用モデル工場であり、社員の7割程を知的障害者が占める小さな会社です。

なお、商品の1つに、環境対応ホタテ貝殻配合の「ダストレスチョーク」があります。これは、「学校の定番品」となっており、本校でも使用しております。

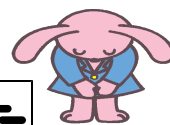
住職曰く、「4つの幸せは働くことによって得るもの」ということですが、青峰っ子にはぜひ4つの幸せが得られる大人になってもらいたいです。どんな形であれ、その時々を懸命に生き抜く姿は、人に愛され・ほめられ・役に立ち・必要とされる姿であり、それは社会で「働く」姿に該当するものと思います。この先、何事にも真摯な態度で挑み続け、「人間の究極の幸せ」を感受し、魅力的な大人に成長することを期待します。

人間の究極の幸せは、
人に愛されること、
人にほめられること、
人の役に立つこと、
人から必要とされること。
働くことによって
この四つの幸せを
得ることができる！。

これからの青峰っ子に幸多かれ



1年間ご協力ありがとうございました



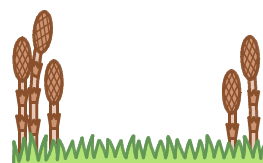
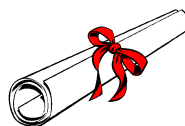
毎年のことですが、「あっ」という間の3学期でした。今年度もコロナ感染に勢いはあったものの、行事や学習活動において少しずつコロナ禍前に戻りつつあった1年間でした。そして、限られた時間や活動の中でも、ひたむきに学び続ける健気な青峰っ子の姿に、いつも元気をもらっておりました。

また、保護者の皆様には、度重なる行事の制限や日時の変更等にも、適切に対応していただきました。これまでのご理解やご協力には、心より感謝しております。どうか無事に1年間を終えることができました。

さて、16日には卒業式、24日には修了式と、1年間の成長や今後の課題を振り返る大事な行事が行われます。4月初めに比べ、どの青峰っ子も大きく成長し、頼もしくなっています。今後も、学校・家庭・地域が一緒になって、青峰っ子の成長を温かく見守っていきましょう。

3月の行事予定

- 2日(木) 6年を送る会
- 3日(金) 地域学校協議会
- 7日(火) 学習参観 PTA役員会・理事会
- 10日(金) 4年社会見学(小石原方面)
- 15日(水) 卒業式準備 6年修了式
- 16日(木) 卒業式
- 21日(火) 春分の日
- 24日(金) 修了式・離任式



4月

- 6日(木) 始業式・赴任式
- 11日(火) 入学式

